



湯河原梅林



さつきの郷



もみじの郷



万葉公園足湯施設「独歩の湯」

自然環境を保全し、安全で快適な生活環境を実現するために。



平成 23 年 版
(2011年)

消 防 年 報

湯河原町消防本部



はじめに

この年報は、湯河原町の消防現勢と平成22年中（一部平成23年）における消防業務の実績及び統計を集録し、将来の消防対策の参考に資するとともに、消防の実態を紹介することを目的として編集しました。

本書が広く活用され、“湯河原消防”に対する理解と認識を深めていただき、今後における消防行政の推進にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年 10月

湯河原町消防本部

全国統一防火標語

- | | |
|------------------------|-----------------|
| あなたは火事の恐ろしさを知らない | (昭和 43 年度・1968) |
| 今捨てたタバコの温度が700度 | (昭和 44 年度・1969) |
| 防火三百六十五日 | (昭和 45 年度・1970) |
| いま燃えようとしている火がある | (昭和 46 年度・1971) |
| 慣れた火に 新たな注意 | (昭和 47 年度・1972) |
| 隣にも 声かけあって よい防火 | (昭和 48 年度・1973) |
| 生活の 一部にしよう 火の点検 | (昭和 49 年度・1974) |
| 幸せを 明日につなぐ 火の始末 | (昭和 50 年度・1975) |
| 火災は人災 防ぐはあなた | (昭和 51 年度・1976) |
| 使う火を 消すまで離すな 目と心 | (昭和 52 年度・1977) |
| それぞれの 持ち場で生かせ 火の用心 | (昭和 53 年度・1978) |
| これくらい と思う油断を 火が狙う! | (昭和 54 年度・1979) |
| あなたです! 火事を出すのも 防ぐのも | (昭和 55 年度・1980) |
| 毎日が防火デーです ぼくの家 | (昭和 56 年度・1981) |
| 火の用心 心で用心 目で用心 | (昭和 57 年度・1982) |
| 点検は 防火のはじまり しめくくり | (昭和 58 年度・1983) |
| “あとで” より “いま” が大切 火の始末 | (昭和 59 年度・1984) |
| 怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」 | (昭和 60 年度・1985) |
| 防火の大役 あなたが主役 | (昭和 61 年度・1986) |
| 消えたかな? 気になるあの火 もう一度 | (昭和 62 年度・1987) |
| その火 その時 すぐ始末! | (昭和 63 年度・1988) |
| おとなりに あげる安心 火の始末 | (平成 元 年度・1989) |

- まず消そう 火への鈍感 無関心 (平成 2 年度・1990)
- 毎日が 火の元警報 発令中 (平成 3 年度・1991)
- 点検を 重ねて築く 火災ゼロ (平成 4 年度・1992)
- 防火の輪 つなげて広げて 無くす火事 (平成 5 年度・1993)
- 安心の 暮らしの中心 火の用心 (平成 6 年度・1994)
- 災害に 備えて日頃の 火の用心 (平成 7 年度・1995)
- 便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ (平成 8 年度・1996)
- つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火 (平成 9 年度・1997)
- 気をつけて はじめはすべて 小さな火 (平成 10 年度・1998)
- あぶないよ ひとりぼっちにした その火 (平成 11 年度・1999)
- 火をつけた あなたの責任 最後まで (平成 12 年度・2000)
- たしかめて 火を消してから 次のこと (平成 13 年度・2001)
- 消す心 置いてください 火のそばに (平成 14 年度・2002)
- その油断 火から炎へ 災いへ (平成 15 年度・2003)
- 火は消した? いつも心にきいてみて (平成 16 年度・2004)
- あなたです 火のあるくらしの 見はり役 (平成 17 年度・2005)
- 消さないで あなたの心の 注意の火。 (平成 18 年度・2006)
- 火は見てる あなたが離れる その時を (平成 19 年度・2007)
- 火のしまつ 君がしなくて 誰がする (平成 20 年度・2008)
- 消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子 (平成 21 年度・2009)
- 「消したかな」 あなたを守る 合言葉 (平成 22 年度・2010)
- 消したはず 決めつけしないで もう一度 (平成 23 年度・2011)

目 次

- ・ はじめに
- ・ 全国統一防火標語
- ・ 目 次

【目 次】

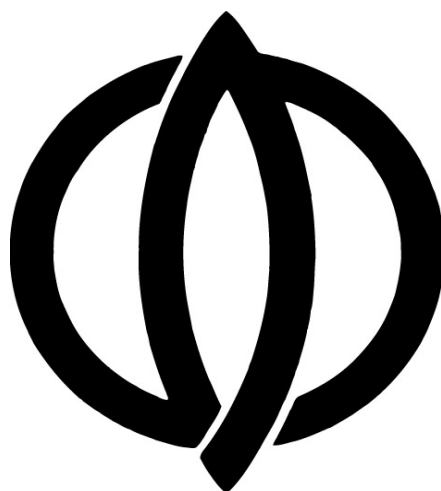
1 町 勢	
町章／湯河原町民憲章／町の木・町の花・町の鳥	1
執行部／歴代湯河原町長／歴代湯河原町副町長等	2
地勢／沿革	3
歴代消防長／歴代消防署長／叙位・叙勲者	4
湯河原町消防のあゆみ	5
2 管内情勢	
位置・面積／人口・世帯数／所在地	13
町勢及び消防吏員／地区別人口・世帯数	14
消防配置図	15
3 組織・職員	
消防の組織	16
消防本部・消防署事務分掌	17
消防力の整備指針と現有（人員）／消防職員配置状況	19
消防職員の年齢・勤続年数・居住地状況	20
特殊技能資格取得状況	21
4 予 算	
消防費の比較／消防予算科目別状況	22
5 施設・機械	
消防力の整備指針と現有（署所）／消防庁舎配置状況（常備） ／消防力の整備指針と現有（車両）	23
消防車両一覧表	24
消防力の整備指針と現有（水利）／管区別水利配置状況	26
6 予 防（裏面 全国統一危険物安全推進標語）	
建築同意事務処理状況の推移	27
防火対象物と防火管理者選任状況	28
建築同意・予防査察・消防用設備等設置届出検査等	30
中高層建築物・防火管理者、自衛消防組織届出対象物状況	32
予防関係の申請・届出状況	33
危険物製造所等貯蔵量別施設数	34

	危険物各種申請・届出状況	35
	防火団体・外郭団体	36
7	火 災	
	火災状況	37
	月別火災発生状況	38
	覚知時間別火災状況	40
	火災の推移	41
	消防本部発足以来の主な火災	42
8	救 急	
	月別救急活動状況	43
	地区別救急活動状況（湯河原町・真鶴町・熱海市泉地区・管外）	
	／年齢区分別搬送人員／傷病程度別搬送人員	44
	署所別救急活動状況（本署・奥湯河原分署・真鶴分署）	
	／収容所要時間別搬送人員／時間別救急出場件数	45
	救急隊員の行った応急処置状況	46
	救急車積載品	47
	救急の推移	48
9	救 助	
	救助活動状況／地域別救助出場状況	49
	時間別救助出場状況／救助の推移	50
	救助工作車装備品	51
10	通 信	
	高機能消防指令センター機器構成図	52
	無線局配置状況	53
	無線局使用状況	54
11	気 象	
	天候別日数／月別気象状況	55
	風向／気温	56
	気象通報受信状況	57
12	消 防 団	
	歴代消防団長	58
	消防団員状況／消防団員報酬（年額）／消防団員手当	
	／消防団員配置状況	59
	消防団員年齢・勤続年数／消防団員職業状況	60
	消防団の現況／消防団詰所設置状況	61
	消防団ポンプ配置状況	62
	町消防操法大会優勝分団	63

1 町

勢

町章／湯河原町民憲章／町の木・町の花・町の鳥	1
執行部／歴代湯河原町長／歴代湯河原副町長等	2
地勢／沿革	3
歴代消防長／歴代消防署長／叙位・叙勲者	4
湯河原町消防のあゆみ	5



町章



昭和36年3月28日制定

「ゆ」の字を図案化し、みかんの断面と温泉を表し、平和と繁栄を象徴した。

湯河原町民憲章

湯河原町民憲章は、わたしたち町民の生活の^{みちしるべ}道標です。

まちづくりの実践活動に努め、誰もが心に泉のもてる誇り高いふるさとの建設を進めましょう。

- 1 健康をよこび、思いやりに満ちた明るく住みよいまちをつくりましょう
- 1 自然をはぐくみ、青空のもとにさわやかな緑と花のまちを築きましょう
- 1 伝統を重んじ、香り高い文化の生まれるまちを創りましょう
- 1 教養を深め、こぞって時代にさきがけた“地球民”をめざしましょう
- 1 訪れる人々を温かく迎え、世界にはばたくまちを拓きましょう

昭和61年3月1日制定

町の木・町の花・町の鳥

木



椿



桜

花



みかん

鳥



めじろ

昭和61年3月1日制定

執行部

(平成23年4月1日現在・敬称略)

町長 富田 幸宏 (平成19年5月6日就任)

副町長 露木 高信 (平成21年7月1日就任)

消防長 秋山 榮作 (平成21年7月1日就任)

消防団長 岩本 賢一 (平成18年4月1日就任)

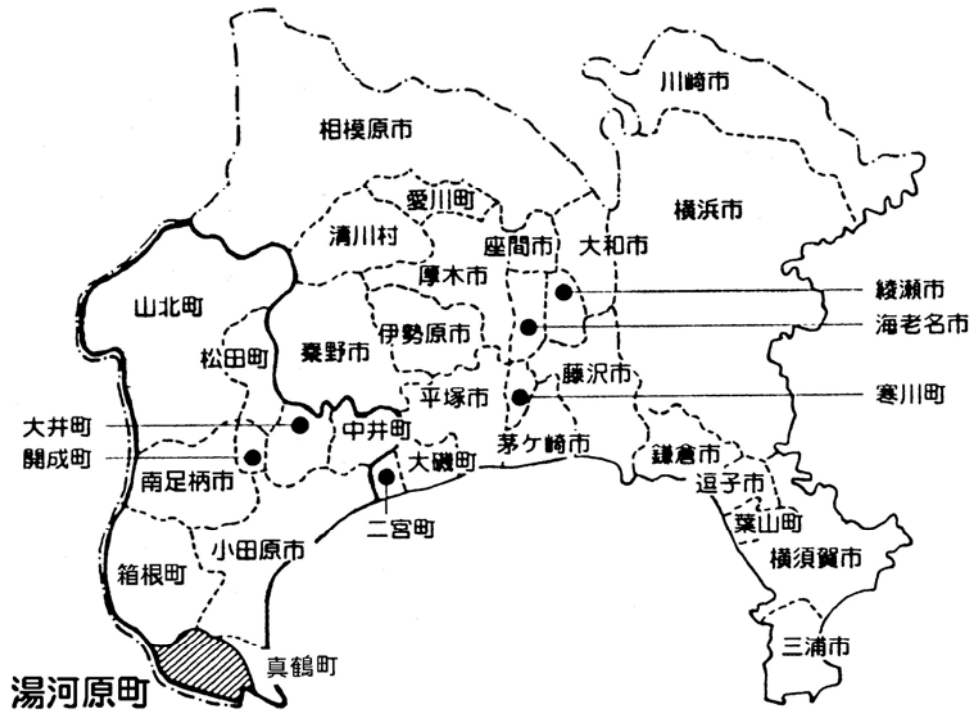
歴代湯河原町長 (町村合併後)

歴代	氏名	就任	退任	任期
1・2・3	八亀武雄	昭和30年5月6日	昭和42年4月29日	3期
4・5	高杉茂利	昭和42年5月6日	昭和50年5月5日	2期
6・7	杉山 實	昭和50年5月6日	昭和58年5月5日	2期
8・9	小澤忠一	昭和58年6月6日	平成3年5月5日	2期
10	丸山孝夫	平成3年5月6日	平成7年5月5日	1期
11・12・13	米岡幸男	平成7年5月6日	平成19年5月5日	3期
14・15	富田幸宏	平成19年5月6日	在任	2期

歴代湯河原町副町長等 (町村合併後)

	歴代	氏名	就任	退任	備考	
助 役	1	小澤 栄三郎	昭和30年10月24日	昭和34年3月19日		
	2	沢村 佐市	昭和36年8月15日	昭和38年6月8日		
	3	室伏 孝久	昭和39年6月24日	昭和43年6月23日	初代消防長歴任	
	4・5	林 泰助	昭和44年2月1日	昭和48年4月30日	第3代消防長歴任	
	6・7	須藤 近喜	昭和48年6月26日	昭和56年6月25日	第2代消防長歴任	
	8	小澤 忠一	昭和56年7月4日	昭和58年3月15日		
	9	高橋 達昇	昭和58年5月19日	昭和62年5月18日		
	10	二見 完	昭和62年5月19日	平成3年5月18日		
	11	室伏 富夫	平成4年1月28日	平成7年5月5日		
	12・13	横井 彦之	平成7年5月22日	平成15年5月21日	第9代消防長歴任	
	14	鈴木 讓	平成17年3月18日	平成19年3月9日		
	副町長	1	露木 高信	平成21年7月1日	在任	第13代消防長歴任

神奈川県における湯河原町の位置



地 勢

J R 東海道本線を東京から約 1 0 0 km、神奈川県の西南端に位置する湯河原町は、相模灘を東に望み、西・南・北の三方を箱根外輪山や伊豆・熱海の花々に囲まれ、一年を通じ温暖で、風光明媚な環境にあります。

鞍掛山に源を発する千歳川は、神奈川県と静岡県（熱海市及び函南町）の県境であり、箱根外輪山に源を発する藤木川と合流している。この千歳川と、もう 1 本の大観山に源を発する新崎川とに挟まれた沖積地に展開するゆるやかな丘陵地を形成し、そのほかは比較的急傾斜の山地で形成されている。

沿 革

湯河原町は、古くは万葉の時代から温泉場として人々に知られていた。江戸時代には、現在の福浦地区を除く宮上村・宮下村・門川村・城堀村・鍛冶屋村・吉浜村を土肥六ヶ村とした。明治 17 年に宮上村・宮下村・門川村・城堀村・鍛冶屋村・吉浜村の六ヶ村が連合して吉浜村に戸長役場を置いて吉浜村外五ヶ村とした。

明治 22 年 4 月町村制が施行され、宮上村・宮下村・門川村・城堀村の四ヶ村を併せて土肥村に、鍛冶屋村・吉浜村の二ヶ村を併せて吉浜村と称した。

大正 15 年 7 月 1 日に土肥村は湯河原町となり、昭和 15 年 4 月 1 日に吉浜村は吉浜町となった。昭和 21 年 8 月 1 日に福浦村は真鶴町外二ヶ村組合から分離し、新たに福浦村としての第一歩を踏み出した。そして湯河原町は観光地、吉浜町は農業地、福浦村は漁業地として一般の知るところとなった。

その後、昭和 28 年 9 月 1 日に公布された町村合併促進法に基づき、同 30 年 4 月 1 日に湯河原町・吉浜町・福浦村の二町一村が合併し、現在の湯河原町が誕生した。

歴代消防長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	室伏孝久	昭和43年4月1日～昭和43年6月23日	助役兼消防長事務取扱
第2代	須藤近喜	昭和43年6月24日～昭和44年2月9日	総務課長兼消防長事務取扱
第3代	林泰助	昭和44年2月10日～昭和48年4月30日	助役兼消防長事務取扱
第4代	山口辰生	昭和48年5月1日～昭和60年11月30日	消防署長兼任期間有
第5代	桜井均	昭和60年12月1日～平成元年3月31日	
第6代	木村昌夫	平成元年4月1日～平成5年9月30日	
第7代	松本光男	平成5年10月1日～平成7年9月30日	
第8代	露木謙太郎	平成7年10月1日～平成9年11月30日	
第9代	横井彦之	平成9年12月1日～平成9年12月31日	助役兼消防長事務取扱
第10代	高橋光政	平成10年1月1日～平成13年3月31日	
第11代	小澤稔	平成13年4月1日～平成15年6月30日	
第12代	畑敏明	平成15年7月1日～平成21年3月31日	
第13代	露木高信	平成21年4月1日～平成21年6月31日	総務部長兼消防長
第14代	秋山榮作	平成21年7月1日～在任	

歴代消防署長

歴代	氏名	在職期間	備考
初代	山口辰生	昭和43年4月1日～昭和57年3月31日	
第2代	芳賀弘	昭和57年4月1日～昭和60年3月31日	
第3代	露木謙太郎	昭和60年4月1日～平成7年3月31日	
第4代	山橋信治	平成7年4月1日～平成11年9月31日	
第5代	三木甫昭	平成11年10月1日～平成13年3月31日	
第6代	山橋信治	平成13年4月1日～平成19年3月31日	再任
第7代	秋山榮作	平成19年4月1日～平成21年6月30日	
第8代	齋藤茂	平成21年7月1日～平成23年3月31日	
第9代	石田利正	平成23年4月1日～在任	

叙位・叙勲者

区分	職・階級	氏名	受章年月日	概要
消防職員	消防監	山口辰生	平成5年7月8日	勲五等双光旭日章
	消防司令	芳賀弘	平成9年11月3日	勲六等单光旭日章
消防団員	団長	常盤興一	昭和44年4月29日 平成3年12月31日	勲五等双光旭日章 従六位
	団長	小石川清作	平成元年4月2日	勲五等瑞宝章
	団長	福井三七夫	昭和53年4月29日	勲五等瑞宝章
	団長	深澤公行	平成3年11月3日	勲六等单光旭日章
	団長	鈴木嘉一	平成6年6月16日	勲五等瑞宝章
	団長	岩本良夫	平成8年4月29日	勲五等瑞宝章

湯河原町消防のあゆみ

明治22年	・土肥村消防組（5部290人）発足（当時の主な機材はとび口、手桶）
27年2月	・吉浜村消防組発足
40年	・土肥村消防組に手押しポンプを各部配備し、防火用タンクを主要箇所を設置する。
大正13年	・機械化を図るためガソリンポンプの導入を開始する。
15年7月	・土肥村が湯河原町となり、土肥村消防組を湯河原町消防組に改称する。
昭和14年4月	・警防団令施行に基づき、湯河原町警防団に改称する。この頃、消防ポンプ車を2台購入し第3分団（宮下）及び第4分団（宮上）に配備する。
	・吉浜村消防組が吉浜村警防団に改称する。
15年4月	・吉浜村が町制となり、吉浜町警防団に改称する。
16年～	・消防ポンプ車を第1分団（門川）に配備。その後、同ポンプ車は第2次大戦中に川崎市防衛を命ぜられ、昭和20年4月15日（日）に米軍機の川崎空襲により直撃弾を受け焼失する。
23年3月	・消防団令施行に基づき湯河原町消防団、吉浜町消防団にそれぞれ改称する。
	・湯河原町消防団の全分団に消防ポンプ車配備を完了する。
26年11月	・熱海市と消防相互応援協定を締結した。
30年7月	・湯河原町・吉浜町・福浦村が4月に町村合併し、初代の常盤與一消防団長のもと9個分団349人、消防ポンプ車8台、ガソリンポンプ1台で湯河原町消防団が発足する。
31年1月	・湯河原町消防協会発足
36年5月	・電報電話局の協力を得て、全分団に対し消防専用電話を設置した。
42年5月	・消防組織法第10条により消防本部及び消防署を置かなければならない市町村に指定される。
42年6月	・湯河原町役場総務課消防係にて救急業務を開始する。
昭和43年4月	・消防本部、消防署を町役場分庁舎に設置〔設置場所：湯河原町門川439番地（現・湯河原町中央2-2-1）〕職員22人、消防ポンプ自動車2台、救急車1台及び指令車1台で常備消防が発足し、初代消防長（事務取扱）に助役の室伏孝久氏が就任する。
	・消防本部事務室、署待機室、仮眠室の増改築工事に着手
6月	・初代消防長 室伏孝久氏 退任
	・第2代消防長 須藤近喜氏 就任（役場総務課長兼消防長事務取扱）
7月	・庁舎の増改築工事が完了し、出場体制を1隊7人計14人（2交替制）で編成
10月	・消防無線を整備（消防ポンプ自動車1台、指令車1台及び救急車に車載無線機を積載）
12月	・特別救助隊の組織編制（隊員9人）
昭和44年2月	・消防ポンプ自動車（ニッサンFC60型）1台購入 消防署に配備
	・第2代消防長 須藤近喜氏 退任（消防長事務取扱兼務を解く）
	・第3代消防長 林泰助氏 就任（助役兼消防長事務取扱）
4月	・職員定数条例一部改正 消防職員定数30人
6月	・第1回都市消防レンジャー技術交換競技会に出場（隊員2名）
10月	・県ポンプ操法大会に応用操法の部において、署と団で中継操法を実施
昭和45年4月	・湯河原町防火安全対策協会発足
7月	・第2回都市消防レンジャー技術交換競技会に出場（隊員6名）
8月	・県消防ポンプ操法大会に救助隊が出場

昭和45年10月	・防火管理者上級講習会を開催（県と共催）
昭和46年1月	・救急車（いすゞエルフ）1台購入 消防署に配備
3月	・消防本部及び消防団に消防庁長官から表彰旗授与 ・初代消防団長 常盤 與一氏 退団 ・文化福社会館に第7分団（吉浜・中央）詰所併設 〔RC造3階建 延べ面積1,324.92㎡ 占有面積96.1㎡〕
4月	・第2代消防団長 小石川 清作氏 就任（前副団長兼団長補佐）
5月	・消防署エアークラッシュ着装検閲大会の実施
7月	・水難救助訓練の実施（於：吉浜海岸） ・第3回都市消防レンジャー技術交換競技会に出場（隊員2名） ・県消防操法大会に消防署甲・乙隊合同で出場
11月	・第9分団（福浦）詰所新築〔木造一部鉄骨造2階建 延べ面積86.5㎡〕
12月	・職員定数条例一部改正 消防職員定数52人（改正前30人）
昭和47年5月	・熱海市との消防相互応援協定を変更
8月	・県消防操法大会出場 第3分団（宮下）優秀賞を受賞 ・小型動力ポンプ（B3級V38A）購入 第9分団に配備
12月	・救助工作車（いすゞTR30）1台購入 本署に配備 ・消防ポンプ自動車（いすゞTXG10）1台購入 第7分団に配備
昭和48年3月	・宮上区民会館に併設する宮上分署、消防独身寮及び第2分団（宮上）詰所が完成し、宮上分署が発足する。〔設置場所：湯河原町宮上229番地〕
4月	・第2代消防団長 小石川 清作氏 退団 ・第3代消防団長 福井 三七夫氏 就任（前副団長兼団長補佐） ・第3代消防長 林 泰助氏 退任（退職）
5月	・第4代消防長 山口 辰生氏 就任（署長兼務）
10月	・第3分団（宮下）詰所新築〔RC造2階建 延べ面積102.2㎡〕
11月	・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第7分団（吉浜・中央）に配備
12月	・消防ポンプ自動車（A2級）1台購入 第6分団（鍛冶屋）に配備
昭和49年8月	・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第8分団（川堀）に配備
10月	・消防ポンプ自動車（A2級）1台購入 第5分団（門川）に配備
11月	・第8分団（川堀）詰所新築〔S造2階建 延べ面積84.8㎡〕
昭和50年8月	・県消防操法大会出場 第5分団（門川）優秀賞を受賞
9月	・消防ポンプ自動車（A2級）1台購入 第9分団（福浦）に配備 ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第1分団（温泉場・奥湯河原）に配備
12月	・（社）日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈本署に配備
昭和51年3月	・3月16日に真鶴との消防団事務を除く消防事務委託を締結し、真鶴分署を開署する。
4月	・真鶴町消防事務の受託により消防事務を開始 ・（社）日本損害保険協会から救急自動車1台寄贈 本署配備
11月	・消防ポンプ自動車（A2級）1台購入 第8分団（川堀）に配備 ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第6分団（鍛冶屋）に配備
12月	・職員定数条例一部改正 消防職員定数62人（改正前52人）
昭和52年3月	・第3代消防団長 福井 三七夫氏 退団
4月	・新消防庁舎開庁〔RC造3階建 延べ面積1,034㎡〕

昭和52年 4月 8月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4代消防団長 岩本良夫氏 就任（前副団長兼団長補佐） ・県消防操法大会出場 第2分団（宮上）優秀賞を受賞 ・第6分団（鍛冶屋）詰所新築〔鉄骨造2階建 延べ面積119.7㎡〕
昭和53年 2月 3月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（A2級）1台購入 第4分団（城堀）に配備 ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第2分団（宮上）に配備 ・奥湯河原分署開設 〔設置場所：湯河原町宮上775-27 RC造2階建 区民会館併設延べ面積176㎡ 1階部分使用占有面積約100㎡〕 ・宮上分署廃止（宮上分署占有部分は、第2分団（宮上）詰所として改築） ・小型動力ポンプ（B3級）2台購入 本署・第3分団（宮下）に配備
昭和54年 2月 4月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（BD-I型）2台購入 奥湯河原分署・真鶴分署に配備 ・湯河原・真鶴危険物安全協会発足 ・第4分団（城堀）詰所新築〔鉄骨造2階建 延べ面積113.5㎡〕
昭和55年 2月 4月 8月 10月 11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご付消防自動車（24級）1台購入 本署に配備 ・消防ポンプ自動車（BD-II型）1台購入 第2分団（宮上）に配備 ・職員定数条例一部改正 消防職員定数69人（改正前62人） ・県消防操法大会に出場 第1分団（温泉場・奥湯河原） ・（社）日本自動車工業会から救急車（トヨタ2B型）1台寄贈 本署に配備 ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第4分団（城堀）に配備 ・消防指令車1台購入 ・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第1分団（温泉場・奥湯河原）に配備
昭和56年 3月 4月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4代消防団長 岩本良夫氏 退団 ・第5代消防団長 鈴木嘉一氏 就任（前副団長兼団長補佐） ・予防査察車1台購入 消防本部に配備 ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第5分団（門川）に配備
昭和57年 3月 4月 7月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急指令装置C型の設置工事完了 ・地震防災講演会の実施（講師：静岡放送報道部デスク 川端信正氏） ・真鶴トンネル防災訓練を道路公団、真鶴町消防団及び小田原警察署と合同で実施する。 ・表示公表制度「防火基準適合表示要綱」に基づいて、管内の優良防火宿泊施設に対して第1回表示「適」マークの交付を行う。 ・機構改革により通信指令係新設 ・消防事務連絡車1台購入 消防本部に配備 ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第9分団（福浦）に配備
昭和58年 3月 7月 10月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・真鶴分署新庁舎完成 〔設置場所：真鶴町真鶴515-1 鉄骨造2階建消防団詰所併設 延べ面積307㎡ 1階部分使用占有面積122㎡〕 ・横浜市消防局航空隊と合同で水難救助訓練を実施（於：吉浜海岸） ・水防工法講習会の開催（講師：岩橋武氏） ・救急車（ニッサン2B型）1台購入 本署に配備
昭和59年 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地震防災講演会の開催（講師：NHK解説委員 伊藤和明氏） ・署内救助競技大会の実施

昭和59年 3月	・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第7分団（吉浜・中央）に配備
6月	・第9回県下消防救助技術指導会“はしご登はんの部”において、隊員1名が関東地区指導会に選出される。
	・水防工法実技の実施（協力：小田原市消防本部）
7月	・湯河原町幼年消防クラブ発足
8月	・関東地区救助技術指導会に出場
9月	・「救急の日」に併せ、町内各地区の婦人会を対象に救急講習会を開催
	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第3分団（宮下）に配備
12月	・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第8分団（川堀）に配備
昭和60年 3月	・第5代消防団長 鈴木嘉一氏 退団
4月	・第6代消防団長 深澤公行氏 就任（前副団長兼団長補佐）
8月	・原因調査用車両1台購入 消防本部に配備
9月	・（社）日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈 本署に配備
11月	・第4代消防長 山口辰生氏 退任（退職）
12月	・第5代消防長 桜井均氏 就任（町長部局から出向 前民生部長）
	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第9分団（福浦）に配備
昭和61年 7月	・救急車（ニッサン2B型）1台購入 本署に配備
11月	・消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入 第8分団（川堀）に配備
昭和62年 8月	・（財）日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車（ニッサンアトラス）1台交付
10月	・湯河原町消友会発足
12月	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第7分団（吉浜・中央）に配備
昭和63年 6月	・第13回県下消防救助技術指導会に出場“はしご登はんの部”において、隊員1名が関東地区指導会に選出される。
7月	・第17回消防救助技術関東地区指導会に出場
9月	・深澤消防団長から団指令車（トヨタクラウン）寄贈
10月	・消防ポンプ自動車（CD-I型）2台購入 奥湯河原分署・真鶴分署に配備
	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第5分団（門川）に配備
平成元年 2月	・消防出初式の自粛に伴い、優良消防団員表彰式を行う（於：観光会館）
3月	・第5代消防長 桜井均氏 退任（町長部局に復帰 総務部長）
4月	・第6代消防長 木村昌夫氏 就任
7月	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第6分団（鍛冶屋）に配備
10月	・湯河原ロータリークラブから携帯用投光機（エンジンライト9台）寄贈9個分団に配備
12月	・隣接する静岡県の田方地区消防組合と消防相互応援協定を締結
平成2年 3月	・第6代消防団長 深澤公行氏 退団
4月	・第7代消防団長 八亀義臣氏 就任（前副団長兼第1中隊長）
10月	・救急車（防振型3000cc）を購入 本署に配備
11月	・深澤前消防団長から操法用備品（火点標的一式）寄贈
12月	・救助工作車（II型）を購入 本署に更新配備
	・飛田京子様からの寄付により災害組織用救急箱を購入 署所に配備
平成3年 7月	・県津波対策訓練の実施（於：吉浜海岸）
10月	・消防ポンプ自動車（CD-I型・電動式ホースレイヤー装備）の購入 本署に配備

平成4年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防指令車（トヨタクラウン）購入 ・職員定数条例一部改正 消防職員定数77人（改正前69人）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1分団（温泉場・奥湯河原）詰所新築〔鉄骨造2階建 延べ面積127.6㎡〕
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第17回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において、隊員1名が関東地区指導会に選出される。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第21回消防救助技術関東地区指導会に出場 ・第38回県消防操法大会に出場 第2分団（宮上）最優秀賞（優勝）を受賞
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員定数条例一部改正 消防職員定数84人（改正前77人） ・消防団員定数条例一部改正 定数240人（改正前271人）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・予防広報車（トヨタハイエース）購入
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第4分団（城堀）に配備
平成5年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急講演会の実施（講師：小田原市立病院 河野内科医長） ・小型動力ポンプ（B3級）1台購入 第1分団（温泉場・奥湯河原）に配備
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・応援協定で実施していた熱海市泉地区の救急業務を4月1日から救急事務受託に移行する。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第18回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において、隊員1名が関東地区指導会に選出される。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第22回消防救助技術関東地区指導会に出場
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第6代消防長 木村昌夫氏 退任（町長部局に復帰 総務部長）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7代消防長 松本光男氏 就任（町長部局から出向 前民生部長）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急車を購入 本署に配備
平成6年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急特別研修会の開催（講師：東京消防庁 赤羽消防司令）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防活動研修会の開催（講師：東京消防庁 日野消防司令）
平成7年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・1月17日に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）に伴い18日～24日までの7日間、救助工作車により隊員5名を救助応援のため神戸市消防局へ派遣する。 ・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第2分団（宮上）に配備
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7代消防団長 八亀義臣氏 退団
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8代消防団長 藤中倉藏氏 就任（前副団長兼第3中隊長）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防体育研修会の開催（講師：東京消防庁 島貫消防司令補）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第7代消防長 松本光男氏 退任（町長部局に復帰 情報公開準備室長）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第8代消防長 露木謙太郎氏 就任（前消防本部次長） ・救急車（防振型3000cc）を購入 本署に配備
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市消防局航空隊と合同訓練を実施（於：県立湯河原高等学校）
平成8年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・火災原因調査研修会の開催（講師：東京消防庁 杉崎消防司令）
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革を実施し、消防本部に2課（管理課・警防課）設置
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命士1名資格取得（総員2名）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第21回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において隊員1名が関東地区指導会に選出される。 ・高度救助用資機材（画像探索機II型、コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー、鉄筋カッター、削岩機、マット式空気ジャッキ）を購入 本署に配備
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第25回消防救助技術関東地区指導会に出場

平成8年10月	・湯河原町消防本部消防職員委員会発足
11月	・救急救命士1名資格取得（総員3名）
12月	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第1分団（温泉場・奥湯河原）に配備 ・八亀前消防団長から応急手当普及啓発用資機材（心肺蘇生訓練人形及び応急手当講習用パネル）寄贈
平成9年6月	・第22回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において隊員1名が関東地区指導会に選出される。
7月	・第26回消防救助技術関東地区指導会に出場 全国大会に選出される。
8月	・第26回全国消防救助技術指導会（千葉県消防学校）に出場 ・インパルス消火装置搭載の消防用軽自動二輪車（赤バイ）を2台購入本署に配備
9月	・消防二輪機動隊（赤バイ隊）の運用開始
11月	・救急救命士1名資格取得（総員4名） ・第8代消防長 露木謙太郎氏 退任（退職）
12月	・第9代消防長 横井彦之氏 就任（助役兼消防長事務取扱） ・水槽付消防ポンプ自動車（1,700ℓ）1台購入 本署に更新配備 ・第9代消防長 横井彦之氏 退任（消防長事務取扱兼務を解く）
平成10年1月	・第10代消防長 高橋光政氏 就任（町長部局から出向 前総務部長）
3月	・消防二輪機動隊（赤バイ隊）が、オレンジマラソン大会の伴走警備を行う（以後毎年実施）
4月	・機構改革により消防署を3部制（三交替制）とし、消防本部管理課を総務課に改称する。 ・国際ソロプチミスト湯河原から高度救命処置用訓練人形（1式）寄贈
7月	・第23回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において隊員1名が関東地区指導会に選出される。 ・第27回消防救助技術関東地区指導会に出場、全国大会に選出される。 ・第41回県消防操法大会出場 第2分団（宮上）が最優秀賞（優勝）を受賞、第16回全国消防操法大会に神奈川県代表として選出される。
8月	・第27回全国消防救助技術指導会（大阪市消防学校）に出場、“はしご登はんの部”において入賞する。 ・水難救助対策で潜水器具4式購入 本署に配備
10月	・奥湯河原分署に高度救命処置資機材装備の救急自動車を配備し、救急業務を開始 ・第16回全国消防操法大会（横浜市消防訓練センター）において、第2分団（宮上）が“ポンプ車の部”で、神奈川県代表として出場し、優良賞を受賞する。
12月	・救急救命士1名資格取得（総員5名）
平成11年3月	・第8代消防団長 藤中倉藏氏 退任
4月	・第9代消防団長 加藤博氏 就任（前副団長兼第2中隊長） ・藤中前消防団長から消防用簡易水槽4基（角形水槽1基、パネル水槽3基）寄贈
8月	・救急救命士1名資格取得（総員6名） ・水難救助対策で潜水器具を購入 本署に配備
11月	・救急救命士1名資格取得（総員7名）
12月	・消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入 奥湯河原分署に配備
平成12年3月	・（財）神奈川県消防協会から消防団に表彰旗授与 ・岩本副団長から災害用ヘッドライト（50個）寄贈 消防団に配付

平成12年 5月	・救急救命士1名資格取得（総員8名）
8月	・高規格救急自動車1台購入 本署に更新配備
10月	・真鶴分署に高規格救急自動車を配備し、救急業務を開始する。
11月	・消防ポンプ自動車（CD-II型）1台購入 第3分団（宮下）に配備
12月	・職員定数条例一部改正 消防職員定数81人（改正前84人） ・第2分団（宮上）詰所が完成〔鉄骨造2階建 延べ面積138.68㎡〕
平成13年 1月	・県内緊急消防援助隊訓練に消防二輪機動隊（赤バイ隊）2台が参加 （於：神奈川県総合防災センター）
3月	・第10代消防長 高橋 光政氏 退任（町長部局に復帰 経済建設部長）
4月	・第11代消防長 小澤 稔氏 就任（町長部局から出向 前経済建設部長）
5月	・救急救命士1名資格取得（総員9名）
6月	・第26回県下消防救助技術指導会に出場 “はしご登はんの部”において隊員1名が 関東地区指導会に選出される。 ・湯河原町女性防火クラブ発足
7月	・第30回消防救助技術関東地区指導会に出場 ・山北町丹沢湖において実施した県西地区消防合同訓練（水難救助訓練）を実施する。
12月	・消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入 真鶴分署に配備
平成14年 2月	・消防団に（財）日本消防協会から竿頭授与
4月	・真鶴トンネルの防災対策に貢献したとして、日本道路公団より当消防本部が表彰を受ける。
5月	・救急救命士1名資格取得（総員10名）
平成15年 2月	・湯河原町女性防火クラブに、（財）日本消防協会から優良婦人消防隊表彰授与 ・高規格救急自動車1台購入 奥湯河原分署に配備
3月	・（財）日本消防協会から消防団指令車（ミツビシパジェロ）1台交付
4月	・救急救命士1名資格取得（総員11名）
6月	・第11代消防長 小澤 稔氏 退任（町長部局に復帰 都市整備部長）
7月	・第12代消防長 畑 敏明氏 就任（町長部局から出向 前環境農政部長）
9月	・指揮車（マツダボンゴ）購入 警防課に配備
10月	・第16回全国女性消防操法大会に県代表として湯河原町女性防火クラブが出場した。
11月	・ゆめ公園において県西地区消防合同訓練（複合用途対象物火災訓練）を実施する。 ・消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入 第9分団（福浦）に配備
12月	・（財）日本消防協会から消防活動用二輪車（ヤマハセロー）3台交付、本署・奥湯河原分署・真鶴分署に配備
平成16年 1月	・消防団員のための実践的な消防活動マニュアルビデオ（風水害編）製作に貢献したとして、（財）日本消防協会から本町消防団に表彰状授与
6月	・携帯電話からの119番間接受信の運用開始
8月	・（財）日本宝くじ協会から消火通報訓練指導車（けすゾウ君）1台交付
10月	・消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入 第8分団（川堀）に配備
11月	・JR東日本国府津車両センターにおいて、鉄道災害を想定した県西地区消防合同訓練を実施する。 ・真鶴トンネル防災対策として、車両火災を想定した消防・日本道路公団合同訓練を実施する。
12月	・高規格救急自動車1台購入 真鶴分署に更新配備

平成17年 2月	・(財)日本消防協会から消防団に「特別表彰まとい」を受章
7月	・湯河原ライオンズクラブからAEDトレーナー(1台)寄贈
9月	・緊急消防援助隊の八都县市合同防災訓練(会場;千葉市)に本町消火隊が参加する。 ・携帯電話からの119番直接受信の運用開始
10月	・消防ポンプ自動車(CD-I型)1台購入 第7分団(吉浜・中央)に配備
11月	・丹沢湖ダム広場において、山岳救助資器材を活用した県西地区消防合同の救出訓練を実施する。
平成18年 3月	・第9代消防団長 加藤 博氏 退団
4月	・第10代消防団長 岩本 賢一氏 就任(前副団長兼第3中隊長)
5月	・救急救命士1名資格取得(総員12名)
9月	・消防ポンプ自動車(CD-I型)1台購入 第5分団(門川)に配備
12月	・箱根町大涌谷において、火山ガス災害を想定した県西地区消防合同の救出救護搬送訓練を実施する。
平成19年 1月	・消防吏員の階級基準に準じ消防長の階級を消防司令長に変更
2月	・消防庁舎耐震補強工事完了 ・女性消防職員が救急小隊(日勤)へ配属される
3月	・高機能消防指令センター(I型)設備の設置工事完了(15日試験運用開始)
4月	・高機能消防指令センター(I型)設備の正式運用開始(1日正式運用開始)
10月	・消防ポンプ自動車(CD-I型)1台購入 第6分団(鍛冶屋)に配備 ・情報収集用オートバイ(リトルカブ)9台購入 消防団(全分団)に配備 ・救助資器材の充実を図るため、最新救助用資器材を購入 本署に配備 ・湯河原海浜公園前沖合において、多数傷病者発生の水難事故を想定した県西地区消防合同の水難救助訓練を実施した。
平成20年 3月	・(財)日本消防協会から防災広報車(マツダボンゴ)1台交付
11月	・新横浜公園において、神奈川県内を震源とする強い直下型地震の発生を想定した緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練に本町救急隊が参加する。
12月	・高規格救急自動車1台購入 本署に更新配備
平成21年 3月	・第12代消防長 畑 敏明氏 退任(退職)
4月	・第13代消防長 露木 高信氏 就任(総務部長兼任)
6月	・第13代消防長 露木 高信氏 退任(7/1 副町長就任)
7月	・第14代消防長 秋山 榮作氏 就任(前消防署長)
12月	・屈折はしご付消防自動車(20m級・Σ型)1台購入 本署に更新配備
平成22年 2月	・横浜消防局救助実践訓練に参加する。
7月	・第47回県消防操法大会出場 第6分団(鍛冶屋)が最優秀賞(優勝)を受賞、第22回全国消防操法大会に神奈川県代表として選出される。
10月	・消防本部指令車(ヴェルファイア)1台リースで導入 ・消防ポンプ自動車(CD-I型)1台購入 第4分団(城堀)に配備
11月	・第22回全国消防操法大会(愛知県蒲郡市蒲郡ボートレース場)において、第6分団(鍛冶屋)が“ポンプ車の部”で、神奈川県代表として出場し、敢闘賞を受賞する。
平成23年 3月	・3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)に伴い、11日~28日までの18日間、緊急消防援助隊(消火隊1、救急隊1、支援隊1)を派遣する。
4月	・斉藤前消防署長から軽トラックの寄贈 ・東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)での大津波の発生を受け、津波対応避難訓練を署立会いの下、湯河原中学校で実施